

# 幼児期のアレルギーについての調査（第二報）

—食べ物と健康のかかわり—

中京短大 ○山内睦子 梅村祥世 岡田悦政 安達和俊

**目的** 前回、幼児のアレルギーについての調査として環境と健康の関わりについて、演者らの付属幼稚園の実態調査を発表したが、アレルギーは厚生省の調査とほぼ等しく高い割合を示し、幼児のアレルギー問題の重さを痛感し、さらに次の2点について検討する。  
 ①家政学会発表時、助言頂いた地域差を比較するため海辺地域と山間部地域を調査する。  
 ②一報で食物の原因が一番多かったので、地域の食べ物について、地域に根づいた郷土料理及び日常の食事とアレルギーの関係を調査する。

**方法** アンケート調査 対象：日間賀島保育園86名 久々野保育園107名 およびその家族。時期：平成5年7月中3日連続 調査事項：前回同様アレルギーの有無、アレルギーの原因、および郷土料理と3日間の食事内容など

**結果** アレルギーのある者は、山の方が海より12.6%多かった。前報同様、海・山とも入園前に約80%近い発症率があった。アレルギーの誘因は、海がその他 住居 食物、山は花粉 その他 食物と順に高く、食物以外に違いがあった。しかし、その時の症状は海・山ともに皮膚炎が約70%近くを占めた。3日間の食事バランス点は山の方が海より高かった。また、アレルギー有無とバランス点の関係は若干であるがアレルギー無しの方が海山とも高かった。郷土料理を作る家庭は、海が34.8%、山が60.5%で山の方がよく作っていた。郷土料理を作る家庭とアレルギーの有無の関係は、海の $\frac{2}{3}$ はアレルギーがなかったが、山についてはほとんど差がなかった。山の郷土料理の使用食品群についても差がなかったが、アレルギーを有する者にあくの多い食品使用がみられた。